

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

遊びや生活の中で現れる幼児の姿は、幼児の発達のほか、家庭や園内の環境など、様々な要因が影響している。この授業では、発達や幼児保育に関する理論を踏まえながら、幼児理解の視点と方法の習得を目指す。講義が主体となるが、事例検討やワークを取り入れて主体的に学べるように進める。病院や保健相談所における臨床心理士、公認心理師としての発達相談・心理相談の実務経験を活かし、現代的課題を踏まえて幼児理解の意義や方法について講義する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス／幼児教育の基本となる幼児理解
第 2 回	幼児理解の意義と理論①：幼児理解に役立つ理論の理解
第 3 回	幼児理解の意義と理論②：幼児の発達：身体・運動・認知・言葉
第 4 回	幼児理解の意義と理論③：幼児の発達：アタッチメント・自己・情動・社会性
第 5 回	幼児理解の意義と理論④：幼児の発達と遊び
第 6 回	幼児理解の意義と理論④：年齢による遊びの変化／集団遊び
第 7 回	幼児理解の方法①：幼児理解の目的に応じた観察と記録
第 8 回	幼児理解の方法②：幼児理解のための観察と記録の活用
第 9 回	幼児理解の方法③：幼児理解の視点／個と集団・いざこざの理解
第 10 回	幼児保育教育実践①：幼児のつまずきの理解とその対応
第 11 回	幼児保育教育実践②：特別な配慮を要する子どもの理解と援助
第 12 回	幼児保育教育実践③：保幼小をつなぐ子ども理解と援助
第 13 回	幼児保育教育実践④：園内の情報共有と協力体制
第 14 回	幼児保育教育実践⑤：保護者との関係づくりと子育て支援：相談援助の姿勢と技法
第 15 回	課題の振り返りとまとめ
第 16 回	定期試験

到達目標

- ・ 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解することができる。
- ・ 幼児理解のための具体的な方法を理解できる。
- ・ 幼児の発達と学びの過程で生じるつまずきや個と集団の関係について考えることができる。
- ・ 保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解できる。

履修上の注意

授業は講義形式で行うが、適宜、ワークやグループディスカッション等を用いて進めていくので、主体的に参加すること。

予習・復習

次回授業で学ぶテーマをあらかじめ伝えるので、関連事項について予習をしておくこと。
授業後には、授業中に示された重要語句について復習し、参考文献なども用いて理解を深めること。

評価方法

定期試験（60%）、授業での取り組み（40%）によって行う。
授業での取り組みについては、授業内の課題の評価・提出状況、および授業態度なども考慮する。

テキスト

テキストは指定しない。毎回の授業で資料を配布する。授業内で適宜、参考文献を紹介する。